

## 鹿児島県におけるオオスミイワヘゴ（オシダ科）の一産地

立久井昭雄

〒 890-0036 鹿児島県鹿児島市田上台

### はじめに

2025 年 5 月，鹿児島県大隅半島の山中にて，オオスミイワヘゴ（*Dryopteris* × *pseudocommixta* Sa.Kurata）を確認したので報告する。

本種は，ツクシイワヘゴ（*Dryopteris commixta* Tagawa）とワカナシダ（*D. kuratae* Nakaike ex Hoshiz. et K.A.Wilson）の雑種である。

### 本種の分布

国内の分布は本州の伊豆半島，九州（海老原，2017），鹿児島県の分布は垂水市岳野（初島，1986）である。標本は鹿児島大学博物館維管束植物 DB に，霧島市烏帽子岳（横川），鹿児島市烏帽子岳，曾於市大川原峽（財部），曾於市光神（末吉），鹿児島大学高隈山演習林（岳野）の収蔵がある。鹿児島県立博物館収蔵資料データベースには，垂水市，霧島市横川の収蔵がある。鹿児島大学高隈山演習林（岳野）は本種の基準産地で，1957 年倉田悟氏が採取し，東京大学総合研究博物館に標本が収蔵されている。以上のことから，今回の確認地は，本種の南限地になるものと思われる。

確認地は錦江町田代の樹林下で，湿り気のあるやや傾斜した川傍である。狭い範囲に 9 株を確認した。周囲にはツクシイワヘゴはあったが，ワカナシダは確認できなかった。

### 確認した特徴

確認した特徴として，葉柄基部の鱗片（図 1C）は披針形の黒褐色で，葉軸の鱗片は狭披針形の同色で，共に縁に鋭い突起がある。1 つの株（図 1A）から 15 本程の葉を出し，葉身の長さ 58 cm，幅 22 cm，葉柄の長さ 21 cm 程である。羽片（図 1B）は間隔が広く着き，下部では羽片間が 3 cm 程ある。基部羽片（図 1D）はやや小さく，中部の最も大きなものは，長さ 11 cm，幅 1.5 cm 程である。裂片間はやや広く V 字に開き，裂片の先は丸い。胞子囊群（図 1F）はワカナシダよりやや大きく，包膜（図 1E）には大小が混じる。

### 証拠標本

今回作製した標本は鹿児島県立博物館（KAP），鹿児島大学総合研究博物館（KAG）に収蔵することになっている。

### 引用文献

- 海老原 淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 2. 学研プラス，東京. 450 pp.
- 初島住彦. 1986. 改訂 鹿児島県植物目録. 鹿児島植物同好会. 鹿児島. 290 pp.
- 鹿児島大学博物館維管束植物 DB Rel. 2.20 <[https://dbs.kaum.kagoshima-u.ac.jp/musedb/s\\_plant/s\\_plant.php](https://dbs.kaum.kagoshima-u.ac.jp/musedb/s_plant/s_plant.php)> (accessed 4 December 2025)
- 鹿児島県立博物館収蔵資料データベース <[https://jmapps.ne.jp/kagoshima\\_pref\\_museum/index.html](https://jmapps.ne.jp/kagoshima_pref_museum/index.html)> (accessed 4 December 2025)



図1. 大隅半島で確認したオオスミワゴ. A: 1つの株. B: 羽片. C: 葉柄基部の鱗片. D: 最下羽片. E: 包膜. F: 孢子囊群.